

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	金谷 匡高（行政で建築文化財を担当し、研究機関では建築・都市の歴史を調査研究している経験を活かし授業を行う）				
授業の到達目標	建築の過去から現代に至る大きな歴史の流れを理解し、現在から未来を見通す視野を獲得する事を目的とする。現代建築を確立するには、多くの先人・建築家・工匠・技術者らによる多くの格闘があり、その結果としての作品及び諸著作がある。それらを知り学ぶ事により、これからの建築を考える判断の土台となる端緒を自らの内に獲得する事を目的とする。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間を取り入れる。また、講義では配布資料及びテキストを用いる。分かりにくい部分はスライドなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回～	1. 日本建築史	導入 古代一飛鳥・奈良建築 古代一神社建築・平安京と寝殿造 寺院建築一古代から中世へ 中世の建築様式 寝殿造から書院造へ 茶室と数寄屋 近世の都市と建築 庶民の住居と町並
第5回～	2. 日本近代建築史	明治維新と洋風建築 西洋建築建設と日本人建築家誕生 伝統建築の再評価 日本分離派建築会 関東震災後の都市・建築 近代和風建築 戦後日本の建築と都市 現代日本の建築 保存制度と建築・都市・景観
第8回～	3. 西洋建築史	古代建築1(ローマ) 古代建築2(ギリシア) 初期キリスト・ビザンチン エジプト・オリエント・イスラム ロマネスク ゴシック ルネサンス・マニエリスム 古典主義建築
第12回～	4. 西洋近代建築史	初期工業化時代 リヴァイヴァリズム 近代運動 前衛運動 工業化社会の建築 戦後・現代の建築1 戦後・現代の建築2
第17回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	大久保良太（建築設計事務所で住宅・オフィス・ホテル・駅等の設計管理とコンペの経験を活かし授業を行う。） 藤江 航（建築設計事務所で、国内外の公共建築等の設計・デザイン・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う）				
授業の到達目標	独立住宅の基本計画ができるようにする。建築計画の基礎知識を修得し、グリッドプランニングの手法を身に付ける。標準的な2階建て住宅が計画できるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、テキストだけでは分かりにくい部分は、スライドやDVDなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業内容について
第2回	製図用具	製図用具の説明
第3回	図面縮尺	図面縮尺と三角スケール
第4回	単位・スケール	尺貫法・各種単位
第5回	人体スケール	各種寸法について・人体寸法実測
第6回		人体寸法実測図の作図
第7回	内観パース(透視図)	内観パース(透視図)の作図演習1
第8回		内観パース(透視図)の作図演習2
第9回	建具	建具の種類と各名称
第10回	断面図と立面図	断面図と立面図の作図演習1
第11回		断面図と立面図の作図演習2
第12回		断面図と立面図の作図演習3
第13回	プレゼンテーション	プレゼンテーション手法
第14回		プレゼンテーション図面表現
第15回	階段	階段の種類と各名称
第16回		階段の種類と作図手法
第17回	まとめ	学習のまとめ、復習
第18回	独立住宅	配置計画
第19回		外構計画
第20回		平面計画とゾーニング
第21回		各室の計画: 玄関
第22回		各室の計画: ホール、廊下
第23回		各室の計画: 居間
第24回		各室の計画: 食事室
第25回		各室の計画: 台所
第26回		各室の計画: 便所
第27回		各室の計画: 洗面脱衣所
第28回		各室の計画: 浴室
第29回		各室の計画: 家事室
第30回		各室の計画: 主寝室
第31回		各室の計画: 子供室
第32回		各室の計画: 和室
第33回	まとめ	学習のまとめ、復習
第34回	総復習	総復習

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築環境工学Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	河村 春美（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	近年の建築では、省エネや省資源といった視点が不可欠になっている。建築を取り巻く基礎的な環境を理解し、建築設計に役立てることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出勤、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回	建築環境工学とは	建築環境工学の目的と構成を解説。 建築計画との連携。建築設備との違いを解説する。
第3回 ～第6回	都市・地球環境	建物を取り巻く外界気象について解説 気温や湿度の一日の変化について解説 クリモグラフ、デグリーデー、風配図、陸風、海風について解説 ヒートアイランド、地球温暖化の現象・原因について解説 ビル風、LCA、LCCO2などの用語解説
第7回 ～第10回	日照・日射環境	地球と太陽の関係について解説。 太陽の運行、太陽定数、太陽位置図などの解説。 日照の確保。日影曲線、日差し曲線を用いた日照条件の検討。 直達日射、天空日射、方位による日射特性を解説。 日射調節の解説。
第11回 ～第15回	光環境	測光量、比視感度、プルキンエ現象、光度、光束など用語の解説。 照度の逆二乗則などの解説。 明視の4条件、グレア、光幕反射、均せい度、モデリング、適正輝度比等の解説。 JISによる照度基準の紹介。 採光計画、全天空照度、昼光率、立体角投射率、頂側窓、ライトシェルフ等の解説。 色温度、人工照明の種類と特徴、人工照明による照明計画、タスクアンビエント照明、照明計算の演習。
第16回 第17回	色彩環境	有彩色、無彩色、加法混色と減法混色の解説。 各種表色系(マンセル、XYZ、オスワルト、PCCS)の紹介と特徴の解説。 色による感覚(重量感、寒暖感、興奮・沈静感など)の紹介。面積効果、対比、同化、誘目性、補色などの解説。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築空調衛生設備Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年・前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	本間 修市（空調設備会社、建築設備事務所で施工管理、設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築設備のうち、給排水衛生設備の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 ～第3回	建築設備概論	建築設備とは、建築設備の役割について解説。 建築設備の種類と構成、および建築計画と設備計画の解説。 地球環境問題と建築設備、省エネルギー、維持管理などの解説
第4回 第5回	給排水衛生設備	給排水衛生設備の役割と目的および構成について解説。 水の種類、化学的特性、物理的特性について解説。
第6回 ～第9回	給水設備	給水設備の目的、水道施設と水道の種類について解説。 水道水・雑用素の水質基準の紹介、給水方式の解説。 自宅の給水使用量を9日間実測しレポートにまとめ考察。 使用水量と給水器具の必要水圧、受水槽・高置水槽の構造について解説。 給水管の管径計算、揚水ポンプ能力の算出計算の実習。
第10回 第11回	給湯設備	湯の性質、給湯温度と使用温度について解説。 給湯方式および給湯配管注意事項について解説。
第12回 ～第14回	排水通気設備	排水通気設備の目的、排水の種類と排水方式について解説。 トラップ、通気管種類、排水管名称について解説。 排水槽の構造、間接排水について解説。 雨水排水管の口径計算について実習。
第15回	衛生器具設備	衛生器具の概要、洋風大便器、洗面器ほかの種類について解説。 衛生器具の設置計画、必要個数について解説。
第16回 第17回	消火設備	燃焼の3要素、消火の方法および消火設備の基本事項について解説。 消火器、消火栓、スプリンクラー、連結送水管、連結散水設備について解説。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築空調衛生設備Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年・後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	仲本 国照(建築設計事務所で、住宅、事務所、工場等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築設備のうち、空気調和設備の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 ～第3回	空気調和設備概要	空気調和設備の目的と構成について解説。 室内環境基準7項目の内容、温熱感覚を解説。
第4回 ～第7回	換気設備	換気設備の目的および第1種から第3種換気方式を解説。 換気量算定の手法を解説し、換気量を計算－1。 換気量算定の手法を解説し、換気量を計算－2。 換気量算定の手法を解説し、換気量を計算－3。
第8回 ～第17回	空気調和設備	空気線図の読み取り方を解説し、加湿量の算定を実習。 顕熱と潜熱の違いから顕熱変化、潜熱変化を解説。 空調負荷計算の概要を解説。 空調方式の種類と特徴を解説。 冷房暖房時の空気線図上の動きを解説。 中央式空気調和機のシステム全体の解説。 熱源装置(ボイラー、冷凍機)、熱搬送機器(送風機、ポンプ)、空調機、熱交換器などの種類および特徴を解説。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築電気設備Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	伊藤 万里菜(大手ゼネコンで設備担当として施工管理及び設計業務に従事した経験を活かして授業を行う。) 本間 修市(空調設備会社、建築設備事務所で施工管理、設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築電気設備全般、照明コンセント設備を中心に受変電設備や動力設備などを理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	電気設備とは	電気設備の役割、構成、関連法規の解説。
第3回		電気の基礎知識。周波数、電流、電圧、電力の解説。
第4回		受変電・幹線設備
第5回	受変電・幹線設備	受変電設備解説。契約電力での受変電設備の要、不要。受電・配電方式解説。幹線設備の解説。遮断器の種類、幹線の配線方式、配線方法の注意点等。
第6回	動力設備	動力設備の解説。負荷密度を用いて、設備容量の推定方法を解説。
第7回	自家発電・蓄電池設備	自家発電設備の解説。発電設備の必要性、コ・ジェネレーションシステムの紹介。発電方式種類(ガスタービン・ディーゼル)の紹介など。蓄電池設備・無停電電源装置(UPS)の解説。自家発電設備との起動時間の比較。
～第9回		
第10回		
～第12回	照明・コンセント設備	照明の用語(光束、光度、照度…)の解説。照明器具の種類と特徴の解説。照明方式の紹介。光束法による照度計算。建築化照明の種類と特徴の解説。コンセントの種類と部屋の大きさによる設置個数。
第13回	情報・通信設備	電話設備(PBX・LAN設備)などの解説。
第14回		テレビ共同受信設備・防犯設備などの解説。
第15回	防災設備	自動火災報知設備および非常灯の解説。
第16回	その他の設備	避雷設備と航空障害灯設備の解説。
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築構造力学Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	田川 典幸（建築設計事務所で、構造設計、耐震診断業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築物を設計するにあたって、「構造」に関する知識が大切であることを認識してもらう。そして、「構造」の基礎となっているのが「構造力学」であることを理解して、構造力学の基礎的な知識を習得してもらう。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の位置付け、評価方法、「建築構造設計」を学ぶにあたって
第2回	構造物に働く力	いろいろな建築物、建築物に働く力、力学的に見た建築物
第3回	力の基本1	力の3要素、力の図示、力の単位、力の符号
第4回	力の基本2	力のモーメント、偶力のモーメント
第5回	力の基本3	力の合成と分解(1点に働く力の合成と分解)
第6回	力の基本4	力の合成と分解(バリニオンの定理)平行な力の合成
第7回	力の基本5	力の合成と分解(バリニオンの定理)平行な力の分解
第8回	力のつり合い	力のつり合い条件式
第9回	構造物と荷重および外力	各種の構造物、支点と接点、荷重および外力の種類
第10回	反力1	各支点に生じる反力の種類、反力の求め方
第11回	反力2	静定構造物(片持梁の集中荷重について)
第12回	反力3	静定構造物(片持梁の等分布荷重について)
第13回	反力4	静定構造物(単純梁の集中荷重について)
第14回	反力5	静定構造物(単純梁の等分布荷重について)
第15回	反力6	静定構造物(ラーメンフレームの集中荷重について)
第16回	反力7	静定構造物(ラーメンフレームの等分布荷重について)
第17回	構造物に生じる力	力の種類、力の求め方と表し方
第18回	応力解析1～	静定構造物(片持梁の集中荷重について)解説
第19回		静定構造物(片持梁の集中荷重について)演習①
第20回		静定構造物(片持梁の集中荷重について)演習②
第21回		静定構造物(片持梁の集中荷重について)演習③
第22回	応力解析2～	静定構造物(片持梁の等分布荷重について)解説
第23回		静定構造物(片持梁の等分布荷重について)演習①
第24回		静定構造物(片持梁の等分布荷重について)演習②
第25回		静定構造物(片持梁の等分布荷重について)演習③
第26回	応力解析3～	静定構造物(単純梁の集中荷重について)解説
第27回		静定構造物(単純梁の集中荷重について)演習①
第28回		静定構造物(単純梁の集中荷重について)演習②
第29回		静定構造物(単純梁の集中荷重について)演習③
第30回	応力解析4～	静定構造物(単純梁の等分布荷重について)解説
第31回		静定構造物(単純梁の等分布荷重について)演習①
第32回		静定構造物(単純梁の等分布荷重について)演習②
第33回		静定構造物(単純梁の等分布荷重について)演習③
第34回		静定構造物(単純梁の等分布荷重について)演習④

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度:1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	川口 孝男(自身の建築設計事務所で、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし授業を行う。) 藤江 航(建築設計事務所で、国内外の公共建築等の設計・デザイン・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築構造全般、木構造、鉄筋コンクリート構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず演習問題及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築工法の概論①	授業ガイダンス 構法と工法
第2回	建築工法の概論②	構法の変遷(1)
第3回	建築工法の概論③	構法の変遷(2)
第4回	建築工法の概論④	構法の変遷(3)
第5回	建築工法の概論⑤	構法の変遷(4)
第6回	建築工法の概論⑥	構法の変遷(5)
第7回	建築工法の概論⑦	構法の変遷(6)
第8回	建築構造の分類①	構造形式の分類(1)
第9回	建築構造の分類②	構造形式の分類(2)
第10回	木質構造①	木構造の原理・構造形式
第11回	木質構造②	材料性質(1)
第12回	木質構造③	材料性質(2)
第13回	木質構造④	地盤特性・基礎構造
第14回	木質構造⑤	軸組構法(1)
第15回	木質構造⑥	軸組構法(2)
第16回	木質構造⑦	軸組構法(3)
第17回	木質構造⑧	軸組構法(4)
第18回	鉄筋コンクリート構造①	RC造の原理・構造形式(1)
第19回	鉄筋コンクリート構造②	RC造の原理・構造形式(2)
第20回	鉄筋コンクリート構造③	材料性質(1)
第21回	鉄筋コンクリート構造④	材料性質(2)
第22回	鉄筋コンクリート構造⑤	材料性質(3) 演習問題
第23回	鉄筋コンクリート構造⑥	配筋(1)
第24回	鉄筋コンクリート構造⑦	配筋(2)
第25回	鉄筋コンクリート構造⑧	配筋(3)
第26回	鉄筋コンクリート構造⑨	配筋(4) 演習問題
第27回	鉄筋コンクリート構造⑩	基礎構造・特徴(1)
第28回	鉄筋コンクリート構造⑪	基礎構造・特徴(2)
第29回	鉄筋コンクリート構造⑫	主体構造(1)
第30回	鉄筋コンクリート構造⑬	主体構造(2)
第31回	鉄筋コンクリート構造⑭	主体構造(3) 演習問題
第32回	コンクリート系構造①	プレキャストコンクリート・コンクリートブロック他(1)
第33回	コンクリート系構造②	プレキャストコンクリート・コンクリートブロック他(2)
第34回	講義のまとめ・復習	まとめ・復習講義 演習問題

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	木村 鉄哉(建築設計事務所で、主に公共建築や大規模建築の設計監理業務で培った経験を活かす授業を行う。)				
授業の到達目標	建築関係法令集を用語の意味を調べる国語辞典のように活用し、身近な建築物が建築基準法の必要最低基準をクリアしていることを理解する。また例題及び演習問題には、一級・二級建築士の過去問題を参考にし、実務の場面でも十分に対応できる指導内容とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	初回ガイダンス	・インデックスの貼り方、法令集の構成
第2回	用語の定義①	・法律用語
第3回	用語の定義②	・建築物、特殊建築物、主要構造部、居室、建築、大規模の修繕、大規模の模様替え 等
第4回	用語の定義③	・延焼のおそれのある部分、耐火建築物、準耐火建築物、敷地、地階、地盤面、避難階 等
第5回	面積及び高さ等①	・面積の算定：敷地面積・建築面積・床面積・延べ面積の算定方法
第6回	面積及び高さ等②	・高さ等の算定：高さ・軒の高さ・階数・地盤面の算定方法
第7回	一般構造規定①	・居室の天井高さ及び床の高さ：法令上必要な最低高さ
第8回	一般構造規定②	・階段：階段に関する用語及び階段の設計方法
第9回	一般構造規定③	・廊下：建築物の用途による廊下の幅
第10回	一般構造規定④	・居室の採光：採光の目的及び有効採光面積の算定方法
第11回	一般構造規定⑤	・居室の換気：換気の目的及び換気方式の種類、石綿等に対する措置：石綿等の使用制限
第12回	敷地と道路①	・道路：道路の種類及び構造基準
第13回	敷地と道路②	・敷地と道路：接道義務の目的及び接道条件
第14回	敷地と道路③	・道路内の建築制限：例外的に、道路内に建てられる建築物等
第15回	敷地と道路④	・私道の変更または廃止の制限
第16回	敷地と道路⑤	・壁面線：壁面線の目的、及び壁面線の成立条件
第17回	用途地域①	・用途地域内の建築制限：用途地域の目的及び用途地域による建築物の建築可否判定方法
第18回	用途地域②	・敷地が異なる用途地域にわたる場合：敷地が異なる用途地域にわたる場合の建築制限
第19回	用途地域③	・卸売り市場等の用途に供する特殊建築物の位置：卸売市場等の特殊施設の建築制限
第20回	建ぺい率①	・建ぺい率の限度：建ぺい率の目的
第21回	建ぺい率②	・建ぺい率による建築面積の算定：建ぺい率を用いた建築面積の算定方法
第22回	建ぺい率③	・建ぺい率の制限緩和：建ぺい率の制限が緩和される条件
第23回	建ぺい率④	・建ぺい率の除外規定：建ぺい率の制限の除外
第24回	容積率①	・容積率の限度：容積率の目的、及び容積率の種類
第25回	容積率②	・容積率による延べ面積の算定：容積率を用いた延べ面積の算定方法
第26回	容積率③	・特定道路の特例：容積率が増える為の一定条件
第27回	容積率④	・住宅地階の特例：住宅の地階が床面積の合計に算入されない為の条件
第28回	容積率⑤	・共同住宅の共用廊下・階段の特例：床面積の合計に算入されない為の条件
第29回	容積率⑥	・自動車車庫等の特例：自動車車庫が、床面積の合計に算入されない為の条件
第30回	耐火建築物、準耐火建築物①	・耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物①
第31回	耐火建築物、準耐火建築物②	・耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物②
第32回	耐火建築物、準耐火建築物③	・耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物③
第33回	演習課題	・復習演習課題
第34回	まとめ	・全体のおさらい

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	広域建築実務Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度:1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	加畑 誠一（建築設計事務所で、住宅、事務所、工場等の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	この科目のために与えられたテーマを学習するに当たり、自ら計画し学ぶことを目標とする。この自ら学ぶ力を養うための「自己調整学習」が、知識の定着に最も重要である。この「自己調整学習」の力を向上させることを目指す。				
授業の概要及び特徴	学部や学科ごとに共通したテーマのもと、自ら計画し学ぶ力を実践させる。具体的には、実技課題のブラッシュアップ、パソコンリテラシーの習得、実習・演習授業の事前及びまとめのための学習とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ ～第8回	1. 自主研究	①名作住宅等の研究を通して、様々な設計思想、手法について学ぶ
第9回～ ～第12回	2. パソコンリテラシーの習得	①Wordの基本操作 ②パワーポイントの基本操作
第13回 ～第17回	3. 苦手科目の補強など	試験対策への準備や普段の弱点部分の補強を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	川口 孝男(自身の建築設計事務所で、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし授業を行う。) 仲本 国照(建築士事務所での施工図・仮設計画図・BIM作図および現場常駐等の実務経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	各種構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。木造用教材、鉄筋コンクリート用教材を使用し、各種構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。これを理解し実感してもらうためには、期限内に課題を完成させることを最優先にしている。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の位置付け、評価方法、線の練習
第2回	木造製図～	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第3回～	木造図面2～	配置図講義① 配置図講義②+作図演習①
～第5回		配置図作図演習②
第6回～	木造図面3～	1階平面図講義① 1階平面図講義②+作図演習①
～第10回		1階平面図作図演習②～④
第11回～	木造図面4～	2階平面図講義① 2階平面図講義②+作図演習①
～第15回		2階平面図作図演習②～④
第16回～	木造図面5～	立面図作図講義① 立面図作図講義②+作図演習①
～第20回		立面図作図演習②～④
第21回～	木造図面6～	断面図講義① 断面図講義②+作図演習①
～第25回		断面図作図演習②～④
第26回～	木造図面7～	矩計図講義① 矩計図講義②+作図演習①
～第34回		矩計図作図演習②～⑧
第35回	鉄筋コンクリート造	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点、線の練習
第36回～	鉄筋コンクリート造図面1～	配置図講義① 配置図講義②+作図演習①
～第38回		配置図作図演習②
第39回～	鉄筋コンクリート造図面2～	1階平面図講義① 1階平面図講義②+作図演習①
～第45回		1階平面図作図演習②～⑥
第46回～	鉄筋コンクリート造図面3～	立面図講義① 立面図講義②+作図演習①
～第52回		立面図作図演習②～⑥
第53回～	鉄筋コンクリート造図面4～	断面図講義① 断面図講義②+作図演習①
～第59回		断面図作図演習②～⑥
第60回～	鉄筋コンクリート造図面5～	矩計図講義① 矩計図講義②+作図演習①
～第68回		矩計図作図演習②～⑧

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

製図専門課程（工業）

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第4回～ 第10回～ 第13回～ 第22回～	1. 初回ガイダンス 2. 線の練習 3. 模型の作り方 4. プレゼン用住宅模型 5. マンションの設計 及びインテリア	・授業の位置付け、評価方法、「建築設計」を学ぶにあたって ・フリーハンドで線を描く練習をする：テーマを決め、様々な線を用いて表現する ・スタディ模型を基に第三者(施主)に対してプレゼンテーションができる模型の製作 ・スチレンボードによる、基本的なプレゼン用住宅模型の製作 ・躯体のみを与えられ、その内部に住宅の設計を行う ・主要な室、水廻り空間、外部空間の設計：機能と必要寸法の学習 ・家具の寸法と配置について ・図面表現、パースの作成について
第43回～ 第70回～ 第75回 第76回～ 第83回 第84回～ 第87回～ 第96回～ 第105回～ 第123回～ 第131回 第132回～ 第134回	6. 都市の住処 ～住宅+α新しい暮らし方 7. 集合住宅の歴史 8. 進級制作 「コモンスペースを持つ 集住住宅」の設計	・要項説明、敷地調査 ・与えられた敷地と条件での理想的な小住宅の設計 ・コンセプトを簡単明瞭に作り、具体的なカタチへ ・エスキスは平面、断面、立面も同時に進める ・誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・模型撮影とライティング・レイアウト・スケジュール管理 ・クラス講評会 ・合同講評会：プレゼン能力の向上、他人の作品研究、課題の区切り及びまとめ ・集合住宅の歴史について学ぶ ・その変遷と生活スタイルの変化についてのレポート作成とプレゼンテーション ・要項説明、敷地調査 ・コンセプト：要求や条件からテーマやイメージを決める ・ダイアグラム：計画の要点や特徴を文章や図を用いて簡潔に表現する ・エスキス①：機能やデザインに基づくゾーニングや動線をまとめる ・エスキス②：ボリュームや外部施設、必要諸室、面積、構造、設備の検討 ：スタディ模型による立体的な観点からの検討 ・プランニング①：徐々に抽象的なコンセプトを具体的なカタチにしてゆく ・プランニング②：エスキス検討を繰り返しつつ、各図面のスケッチを描く ・プランニング③：配置図・平面図・断面図等の作成と、各種検討作業を継続する ・プランニング④：必要図面表現を明確にし、実際の作図を実施する ・パース・模型①：計画意図を明確に伝えるための内外イメージの具現化 ・パース・模型②：スケッチ、パース、模型等による表現 ・プレゼンテーション：誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・クラス講評会：他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・合同講評会：プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ 向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す
第135回～ 第140回	9. 総括課題	・年度末 卒業・進級制作作品集へ掲載する作品データの制作 ・優秀作品講評会、発表会における会場での聴講及びそのレポート

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD演習	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	加瀬谷章紀(自身の建築設計事務所で、福祉施設、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	VectorWorksをメインとして、CADの概念からその基本的な操作方法を学ぶ。そして、建築におけるCADや3Dモデルといったデジタルならではの表現を学習し、その作成したデータを素材としてプレゼンテーションを完成させることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD・3D図面の作図方法を学ぶ。また、小テストを実施して各自のスキルアップの段階や進捗程度を確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 初回ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. インストール	CADのインストールとユーザー登録についての説明
第3回～ 第8回	3. CADの基本操作演習1	CADの特徴と基本的な設定、重要コマンドの概略を説明 各レイヤーや線種等の設定を踏まえた作図を習得する 図形の描画方法を学ぶ。直線、円、円弧、削除と取消を習得する
第9回～ 第18回	4. CADの基本操作演習2	図形の修正方法を学ぶ。選択方法、移動、複写や隅部の処理方法を習得する 画層(レイヤー)の管理と操作方法を学ぶ。画層の概念について解説し、管理方法 画層の使いこなし方とそれによる効率のよい図面の描き方を習得する 図形以外のオブジェクトとして、文字及び寸法線の入力方法を習得する モデル空間を学ぶ。基本的な効率のよい印刷方法を習得する。
第19回～ 第32回	5. CADで作成する 実施図面1	平面図講義 平面図作図演習①(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て) 平面図作図演習②(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て) 平面図作図演習③(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て)
第33回～ 第40回	6. CADの応用操作演習3	尺度、印刷スタイルやレイアウト空間といったCADの特性を把握し、正確に出力する方法を学ぶ。レイアウトの基本、複数尺度での表示、異尺度対応を習得する 効率よく作業するための方法を学ぶ。テンプレート、図面間でのコピー、ブロック、ハッチング、表の作成、図面情報の管理等を用いた図面作成方法を習得する
第41回～ 第46回	7. CADで作成する 実施図面2	立面図作図演習①(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て) 立面図作図演習②(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て) 断面図作図演習①(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て) 断面図作図演習②(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て)
第47回～ 第53回	8. 3Dの基本操作	VectorWorksの3Dモデル作成に必要なコマンド操作などを学ぶ。
第54回～ 第59回	9. CADデータを利用した 3Dモデルの作成	二次元データを基にして、3Dのモデルを作成する 立体のモデルを作成することで、より3次元としての建築空間を視覚的にも、感覚的にも把握できるようにする
第60回～ 第68回	10. デジタルデータの プレゼンテーション	プレゼンテーション講義 これまでに作成したCAD図面、3Dモデル、デジタルパースなどを素材に、一つのプレゼンテーションソフトにまとめ、実際に発表する

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	プレゼンテーション演習Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	1単位(34時間)	開講・履修期	2026年度:1年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	塙 楊一郎(自身の事務所で、全国の公共建築等のランドスケープ設計・デザイン・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う)				
授業の到達目標	デジタルデザインに必要な、色や形、質感や配置などのデザイン要素、視覚要素を美しく特徴的によりよく配置するための統一や協調、バランスやリズムなどのデザイン原則を、パソコンを用いた複数のグラフィック系ソフトの課題制作を通して体感的に学習し、これらの知識と技術の取得から、表現者の意図をわかりやすく伝達できるプレゼンテーションの表現・伝達を自ら情報発信する側としての知識や方法論を身につける。				
授業の概要及び特徴	プレゼンテーションと印刷物を中心とした表現媒体において、適切で効果的な視覚情報伝達に必要なグラフィックデザインの基礎知識と表現スキルを、パソコンを用いたグラフィック系アプリケーションソフトを使用した、基本演習課題を通して学習する。各アプリケーションソフトの基本操作とデザイン要素を確認しながら、プレゼンテーションの技術を体感的に取得する。課題の最後には作品を提出し、提出された作品の中で特徴的なものを抽出し、講評する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	0. ガイダンス	授業で使用するソフトウェアの紹介/基本的な概念、つくり、なりたちを学ぶ
	1. 概論 [Illustrator /AI]	Illustrator :ファイルの作成・保存、ツールバー、各種ウィンドウ、マウス操作など、画面の基本操作を紹介、簡単な図形などを描く(PC上で手を動かす)
第2回	2. 概論 [Photoshop /Ps]	
第3回	3. 図形や線を描く [AI]	Photoshop :ファイルの作成・保存、ツールバー、各種ウィンドウ、マウス操作など、画面の基本操作を紹介、簡単な画像操作を行う(PC上で手を動かす)
第4回	オブジェクトの選択と基本的な変形 [AI]	・四角形、楕円、多角形、その他図形 ・直線 ・曲線
第5回	色と透明度の設定 [AI]	・オブジェクトの選択 ・オブジェクトの変形
第6回	オブジェクトの編集と合成 [AI]	・色の設定 ・グラデーション
第7回	線と文字の設定 [AI]	・レイヤー ・オブジェクトの複製 ・きれいな整列
第8回	A. 演習課題 [AI]	・線の設定 ・線幅ツール、他 ・文字の入力、編集、レイアウト
第9回	4. レイヤーの操作と色調補正 [Ps]	個人課題 [Illustrator] :名刺制作、他
第10回	選択範囲の作成 [Ps]	・レイヤーの基本操作 ・色調補正と調整レイヤー
第11回	色の設定とペイントの操作 [Ps]	・選択範囲の基本操作 ・選択方法
第12回	レイヤマスク [Ps]	・色の設定 ・グラデーション
第13回	文字 [Ps]	・レイヤーマスクとは
第14回	画像の修正 [Ps]	・文字の入力と編集
第15回	5. IllustratorとPhotoshopの連携 [AI] [Ps]	・ゴミや不要物の削除
第16～17回	B. 演習課題 [AI] [Ps]	Illustratorへの画像の配置 ・IllustratorからPhotoshop用の書き出し
		個人課題 [Illustrator] [Photoshop] :建築作品プレゼンテーションボード作成

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築課題研究Ⅰ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位（140時間）	開講・履修期	2026年度：1年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	加畑 誠一（建築設計事務所で、住宅、事務所、工場等の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	普段の教科目だけでは習得できない展示会の見学や講演会への参加。そして、企業を招き最新の業界情報を知る特別授業を受講する。さらに、設計課題等の現地調査や役所調査を行い、より実務に近い情報を得ることに役立てる。				
授業の概要及び特徴	展示会の開催時期、講演会の開催時期に応じて参加する。また、企業と連携し、定期的に特別授業を依頼し、業界の先端情報やソフトの実情に関する授業に参加する。さらに、平日でしかできない諸調査を行うことでより実務に即した方法で課題に取り組むことができる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	1. 校外授業	展示会の見学 歴史的建築物や有名な建築物の見学 建築家の講演会への参加 美術館等の見学 街並みの散策等の実施
	2. 特別授業への参加	企業に来校いただき業務内容や最先端事情についての特別授業の受講 企業で働くOBを招いて、業務内容や業界の実情等に関する特別授業の受講
	3. 先端ソフトに関する特別授業	プレゼンテーションソフトの販売会社等を招き、先端ソフトの機能や操作状況について特別授業の受講
	4. 設計課題等の調査	設計課題の敷地調査、役所調査、環境調査等を行う。
	5. 課題対応	設計課題等の作成作業等を行う。
第70回	6. 苦手科目の補強	試験対策や普段の弱点部分の補強を行う。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	ビジネス実務	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	一般教養
教員紹介	西谷 悠(就職指導業務に従事した実務者が、経験を生かした授業を行う。)				
授業の到達目標	専門学校卒業後の進路を考え、就職活動に必要な基礎知識や履歴書の作成方法等を学ぶ。基本的な挨拶やビジネスマナー等の習得を目標とする。				
授業の概要及び特徴	オンラインでの講義形式を基本とする。ワークや提出書類でキャリアについて自分の考えをまとめていく。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 働く目的と働き方	働く目的や働き方、仕事の種類を解説
第2回	2. コミュニケーション	コミュニケーションの基本である挨拶の重要性について解説
第3回	3. 就職ガイダンス	活動スケジュール、インターンシップ、就活準備の解説
第4回	4. 社会に対する関心	社会に対する関心を持つ(毎日の時事への関心を習慣化する)
第5回	5. 自己分析①	自分を振り返り、理解する
第6回	6. 自己分析②	①振り返りシート作成 ②自己分析シート作成
第7回	7. 履歴書①	①履歴書の目的、作成方法のポイント进行解説
第8回	8. 履歴書②	②履歴書用紙に記入練習
第9回	9. 面接対策①	①説明会、会社訪問(WEB・対面)のポイント进行解説
第10回	10. 面接対策②	②面接(集団・個人・WEB・対面)のポイント进行解説
第11回	11. 入社試験対策	筆記試験・適性検査の特徴と対策进行解説
第12回	12. 電話	電話対応のポイント进行解説
第13回	13. メール	ビジネスメールのポイント进行解説
第14回	14. 手紙	送付状・封筒宛名の書き方と送付方法のポイント进行解説
第15回	15. ビジネスマナー①	①報告・連絡・相談の重要性の理解と解説
第16回	16. ビジネスマナー②	②敬語・言葉使いと訪問時マナーのポイント进行解説
第17回	17. ビジネスマナー③	ビジネスマナーの解説・まとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	加畑 誠一（建築設計事務所で、住宅、事務所、工場等の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	各用途別に建築計画の基礎知識を修得する。 建築計画の流れや、企画から基本計画、基本設計を行うために必要な、計画上の基礎知識の修得を目標とする。 その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、テキストだけでは分かりにくい部分は、スライドやDVDなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業内容の解説
第2回	美術館	定義、種類、配置計画
第3回		6つの機能、平面構成
第4回		展示部門の計画：展示機能、展示形式、動線計画
第5回		巡回形式、展示部門以外の平面計画
第6回		断面計画、採光計画（自然採光方式）
第7回	図書館	定義、種類
第8回		機能、出納システム
第9回		配置計画
第10回		平面計画（開架閲覧室～BM車庫）、断面計画
第11回	集合住宅	定義、階数で分類、断面形式
第12回		アクセス形式で分類
第13回		共用廊下、共用階段の計画
第14回		エレベーター（昇降機）の計画
第15回		エントランス、駐車場の計画
第16回		住戸内部の計画
第17回	まとめ	前期のまとめ
第18回	小学校	歴史、種類、通学区域
第19回		学級運営の方式
第20回		配置計画
第21回		ブロックプラン
第22回		平面計画、断面計画
第23回		各室の計画
第24回	オフィスビル	歴史、定義、種類
第25回		敷地の条件と配置計画
第26回		空間構成
第27回		レントابل比
第28回		賃貸形式、規模計画
第29回		コアシステム
第30回		平面計画
第31回		断面計画
第32回		エレベーターの計画
第33回		これからのオフィスビル
第34回	まとめ	後期のまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築材料	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	伊東 秀紀（総合建設業で商業施設の新築・改修の施工管理業に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築を学ぶ上において、建築材料は基礎となる。建物に使用される各種材料の製造方法や、基本的な性質を理解し、建築物への用い方や工法上の注意事項などを学習する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業概要及び成績評価 / 建築材料の基礎
第2回	建築材料の概要(1)	建築材料の歴史 / 建築材料の規格 / 建築材料の分類と性能
第3回	防水材(1)	防水材の種類 / アスファルトの歴史 / アスファルト防水材の種類
第4回	防水材(2)	アスファルト防水について
第5回	石・タイル材	石材の種類 / 各石張り工法 / タイル材の種類 / タイルの施工方法
第6回	金属部材	金属の種類 / 軽量鉄骨材について
第7回	左官材	左官材の歴史 / 左官材の種類 / 左官工法について
第8回	塗装材	塗装材の種類 / 塗装方法について
第9回	内装材	床材 / 壁・天井材
第10回	組積材	ALC材 / 押出成形セメント / コンクリートブロック材
第11回	ガラス(1)	ガラス材の歴史 / 板ガラスの種類
第12回	ガラス(2)	ガラスの加工方法
第13回	木材(1)	木材の種類 / 木材の組織 / 含水率
第14回	木材(2)	その他性質 / 木質材
第15回	材料実験(1)	鉄筋コンクリート造の基礎学習
第16回	材料実験(2)	圧縮・引張試験について
第17回	材料実験(3)	レポートまとめ

※・1単位時間45分(90分授業)・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	伊東 秀紀（総合建設業で商業施設の新築・改修の施工管理業に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築施工に関わる基礎を習得する。 建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を使用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業概要及び成績評価 / 建築生産(施工)とは / 建築生産(施工)の歴史
第2回	契約(1)	工事関係者 / 監理と管理 / 施工者の選定方法 / 契約の種類
第3回	契約(2)	工事請負契約 / 工事請負契約約款 / 建設業法 / 監理業務委託契約
第4回	施工計画	施工計画書の作成 / バーチャート工程表
第5回	管理計画	材料管理の方法 / 申請・届出の種類と業務内容 / 安全管理
第6回	事前準備工事	地盤調査の種類 / 標準貫入試験とは / その他調査方法
第7回	仮設工事(1)	仮設工事の種類 / 共通仮設 / 直接仮設
第8回	仮設工事(2)	足場の種類 / 単管足場 / 枠組足場
第9回	土工事	土工事の流れ / 根切工事 / 排水工法の種類 / 床付け・埋戻し・締固め
第10回	山留工事	山留工法の種類 / 山留壁の種類 / 水平切梁工法
第11回	地業工事	既製コンクリート杭(セメントミルク工法)について / 場所打ちコンクリート杭について
第12回	工程表(1)	ネットワーク工程表の計算方法①
第13回	工程表(2)	ネットワーク工程表の計算方法②
第14回	試験対策講義(1)	試験対策問題①
第15回	試験対策講義(2)	試験対策問題②
第16回	その他工事(1)	測量 / 積算
第17回	その他工事(2)	施工機械・器具
第18回	躯体工事	鉄筋コンクリート造について / 計画供用期間とは
第19回	鉄筋工事(1)	鉄筋材の種類 / 各部名称 / 加工・組立方法
第20回	鉄筋工事(2)	あきの計算 / 継手の種類 / 重ね継手とは
第21回	鉄筋工事(3)	定着について / 鉄筋のかぶり厚さ / ガス圧接継手
第22回	型枠工事(1)	型枠材の種類 / 各部名称 / 緊結材
第23回	型枠工事(2)	せき板の存置期間 / 支保工の存置期間
第24回	コンクリート工事(1)	コンクリートの構成 / セメントの種類 / 骨材 / コンクリートの性質
第25回	コンクリート工事(2)	コンクリートの調合 / レディーミクストコンクリート
第26回	コンクリート工事(3)	コンクリートの打込み / コンクリートの運搬
第27回	コンクリート工事(4)	各種コンクリート / コンクリートの欠陥
第28回	コンクリート工事(5)	コンクリート工事のまとめ
第29回	鉄骨工事(1)	鉄骨工事の流れ / 鋼材の加工方法
第30回	鉄骨工事(2)	接合方法について / 溶接 / ボルト接合
第31回	鉄骨工事(3)	鉄骨建方 / 各種精度検査
第32回	仕上工事(1)	防水工事 / シーリング工事
第33回	仕上工事(2)	張り石工事 / タイル工事 / 左官工事
第34回	仕上工事(3)	塗装工事 / 内装工事 / 木工事

※・1単位時間45分(90分授業)・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅱ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	山本 寛(設計事務所で、住宅や商業施設の設計管理業務及び資格予備校の講師に従事している経験を活かし授業を行う。) 福地 和来(設計事務所での設計・監理業務の経験と、資格学校での講師業の経験を活かし、実務に役立つ授業を行う。)				
授業の到達目標	建築法規Ⅱでは建築法規Ⅰの続編として、実務レベルに必要な範囲の建築基準法をマスターする。また建築物の実施設計等に必要な建築基準法以外の法律、例えば建築士法・住宅品質確保法等の関係法令も理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	高さ制限①	・絶対高さ:用途地域等により、建築物の高さが制限される事を解説
第2回	高さ制限②	・道路斜線:前面道路の幅員等により、建築物の高さが制限される事を解説
第3回	高さ制限③	・隣地斜線:隣地境界線からの離隔距離等による高さ制限の解説
第4回	高さ制限④	・北側斜線:北側隣地境界線・北側道路からの離隔距離等による高さ制限の解説
第5回	高さ制限⑤	・斜線制限の緩和:各種の斜線制限が緩和される条件を解説
第6回	高さ制限⑥	・日影規制:日影による中高層建築物の高さ制限を解説
第7回	避難施設等①	・廊下:廊下幅員の特例について解説
第8回	避難施設等②	・出入り口:客席からの出口の戸、及び屋外への出口の戸について解説
第9回	避難施設等③	・避難階段:2以上の直通階段が必要な建築物の条件、及び避難階段の種類等の解説
第10回	避難施設等④	・排煙設備について、その設置条件及び構造等について解説
第11回	避難施設等⑤	・非常用照明・非常用進入口・非常用EVIについて、その設置条件及び構造等の解説
第12回	構造計算及び構造強度①	・構造計算:建築設計において、構造計算が必要か不要かの判定方法を解説
第13回	構造計算及び構造強度②	・木造:地震、台風に安全な木造建築物を造る為、柱の小径・必要軸組長さ等を解説
第14回	構造計算及び構造強度③	・補強コンクリートブロック造:地震で倒壊しない塀の構造等を解説
第15回	構造計算及び構造強度④	・鉄骨造:鉄骨造の材料・有効細長比・接合・高力ボルト等を解説
第16回	構造計算及び構造強度⑤	・鉄筋コンクリート造:柱・床版・はり・耐力壁の構造等を解説
第17回	防火規定①	・防火地域・準防火地域:両地域内の建築構造・外壁・防火戸・看板等に関する建築制限を解説
第18回	防火規定②	・準耐火建築物の木造3階建共同住宅:本来は耐火建築物にすべき建築物が、例外として、一定条件を満足すれば準耐火建築物で建てられる事を解説
第19回	防火規定③	・内装制限を受ける建築物:内装制限を受ける建築物の条件について解説
第20回	防火規定④	・内装制限を受けた建築物の内装仕上材料等について解説
第21回	防火規定⑤	・防火区画:面積・高層・堅穴・異種用途区画の条件、及びその構造等について解説
第22回	防火規定⑥	・防火区画:面積・高層・堅穴・異種用途区画の条件、及びその構造等について解説
第23回	防火規定⑦	・防火壁・界壁・間仕切壁・隔壁:4種類の壁についてその適用条件を解説
第24回	建築確認申請及び建築手続き①	・建築物の設計において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第25回	建築確認申請及び建築手続き②	・建築物の設計において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第26回	建築確認申請及び建築手続き③	・中間検査・完了検査の必要な時期、及びその申請方法について解説
第27回	建築確認申請及び建築手続き④	・定期報告・工事届、除却届等:各種届出の時期及び届出方法について解説
第28回	建築確認申請及び建築手続き⑤	・演習問題による実習を通して、各種届出について理解
第29回	振り返り・確認テスト	・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第30回	関係法令①	・建築士法:1級・2級・木造建築士が設計監理できる建築物の条件について解説
第31回	関係法令②	・建築士法:建築士の業務・事務所の規定等について解説
第32回	関係法令③	・住宅品質確保法:品確法の用語の定義、及び新築住宅の瑕疵担保責任等について解説
第33回	演習課題	・復習演習課題
第34回	まとめ	・全体のおさらい

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築構造力学Ⅱ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	田川 典幸（建築設計事務所で、構造設計、耐震診断業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築物を設計するにあたって、フレーム及び部材の断面にどのように力が作用し、その時の力の大きさと強さがフレーム及び断面に与える影響、安全性について学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築構造力学Ⅰの復習1	片持梁の応力解析
第2回	建築構造力学Ⅰの復習2	単純梁の応力解析
第3回	応力解析1～	静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)解説
第4回		静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)演習①
第5回		静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)演習②
第6回	応力解析2～	静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)解説
第7回		静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)演習①
第8回		静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)演習②
第9回	応力解析3～	静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)解説
第10回		静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)演習①
第11回		静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)演習②
第12回	応力解析4～	静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)解説
第13回		静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)演習①
第14回		静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)演習②
第15回	静定トラス1	静定トラスとは、静定トラスの各部材に生じる力
第16回	静定トラス2	接点法による応力解析、解説と演習
第17回	静定トラス3～	切断法による応力解析、解説と演習①
第18回		切断法による応力解析、演習②
第19回		切断法による応力解析、演習③
第20回	断面の性質1	断面一次モーメントと図心、解説と演習
第21回	断面の性質2～	断面二次モーメント、解説と演習①
第22回		断面二次モーメント、演習②
第23回	断面の性質4	断面係数、断面二次半径、断面の主軸
第24回	構造材料の力学的性質	応力度について(垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度)解説
第25回	部材に生じる応力度1	圧縮力を生じる部材、長柱公式(オイラー式)、解説と演習①
第26回	部材に生じる応力度2	せん断応力度、解説と演習
第27回	部材に生じる応力度3	最大せん断応力度、演習
第28回	部材に生じる応力度4	曲げ応力度、解説と演習
第29回	部材に生じる応力度5～	最大曲げ応力度、演習①
第30回		最大曲げ応力度、演習②
第31回		最大曲げ応力度、演習③
第32回	不静定構造物1～	たわみについて
第33回		たわみ角について
第34回		不静定ラーメンについて

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造Ⅱ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位（34時間）	開講・履修期	2026年度・2年（前期）	講義区分	専門理論
教員紹介	仲本 国照（建築士事務所での施工図・仮設計画図・BIM作図および現場常駐等の実務経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	鉄骨構造の構造形式、鋼材の種類、接合、骨組、仕上を中心に鉄骨構造について理解して、基礎的な知識を習得する。建築試験に必要な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築工法の概論	授業ガイダンス 構法の変遷
第2回	鉄骨構造①	その他の鉄骨構造(1)
第3回	鉄骨構造②	構造形式の分類・特徴(2)
第4回	鉄骨構造③	材料性質(1)
第5回	鉄骨構造④	材料性質(2) 演習問題
第6回	鉄骨構造⑤	接合方法・分類・特徴
第7回	鉄骨構造⑥	機械的接合(1)
第8回	鉄骨構造⑦	機械的接合(2)
第9回	鉄骨構造⑧	冶金的接合(1)
第10回	鉄骨構造⑨	冶金的接合(2)
第11回	鉄骨構造⑩	冶金的接合(3) 演習問題
第12回	鉄骨構造⑪	骨組(1)
第13回	鉄骨構造⑫	骨組(2)
第14回	鉄骨構造⑬	骨組(3)
第15回	鉄骨構造⑭	骨組(4)
第16回	鉄骨構造⑮	骨組(5)
第17回	学習のまとめ、復習	まとめ・復習講義 演習問題

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	住宅インテリア計画	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(34時間)	開講・履修期	2026年度:2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	加瀬谷章紀(自身の建築設計事務所で、福祉施設、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし、)				
授業の到達目標	住宅インテリア計画は使用者・生活者のためのデザインだという視点で考えることが重要。インテリアとは「人間を起点」におくデザインであり、住宅における各要素が住まいの各行為に対する空間デザインであることを学習する。その集大成として住宅インテリア計画のプレゼンテーションを作成し、発表を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	校外調査や専門機関・ショールームの見学など、実地レベルでの体験授業なども適宜取り入れ、各章ごとに手描きを中心とした演習課題を課す。また、住宅建築家設計の住宅を基に、住宅インテリア計画・設計手法の考察を講義形式でおこなう。最終課題として、住宅関連の学生デザインコンペに出展をし、要項に基づいた提案書を作り上げ、期限内に作品を完成させる。最終プレゼンテーションをクラス内にておこなう。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第 1回	0. ガイダンス	インテリア計画とは/概要、目標設定
第 2～5回	1. インテリア計画-1	《講義考察》～住まいを考える 第1課題：住宅 インテリア研究 ※著名住宅建築より個別考察 ・平面計画/エスキス ・平面図 ・展開図 ・アイソメ ・部分詳細(造作・建具階段・家具等)スケッチ
第 6～13回	2. インテリア計画-2	《講義考察》～住まいのプランニング、住宅インテリアデザイン 第2課題：(仮称)自分の部屋 ・人体スケール(自身の寸法) ・エスキス ・平面図 ・展開図 ・アイソメ ・部分詳細(造作・建具階段・家具等)スケッチ ・マテリアル ・住宅インテリア模型
第14～17回	3. プレゼンテーション/講評	プレゼンテーション/講評/総評

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	住宅エクステリア計画	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	6単位(102時間)	開講・履修期	2026年度:2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	加瀬谷章紀(自身の建築設計事務所で、福祉施設、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし				
授業の到達目標	建築と建築との間にある「隙間」や「余白」を如何にデザインするかは重要である。いわゆる外構計画とも呼ばれるが、これらも建物と内部のインテリアデザインと一体的に、延長線上にあるもので、空間を考えるとときに大切な要素となり、ここではエクステリア計画について学習する。その集大成として、エクステリアプランナー2級の資格取得を目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を主とするが、現地調査や住宅・庭園の見学など、実地レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドや実物などをを用い、実現場で行われているエクステリア計画の内容を講義形式で行う。各章ごとに小課題を課し資格試験対策の基礎作りに繋げ、その集大成としてエクステリアプランナー2級の資格所得のため、模擬試験形式の試験課題と実地試験課題を課し、エクステリア計画を学習する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	0. ガイダンス	エクステリア計画とは
第2～4回	1. 概論	学科1:エクステリアとは :まちなみの知識
第5～7回	2. 法規	学科2:法令用語の基礎知識～エクステリア関連法規の基礎知識～都市緑地法 :建築基準法・同施行令の概要～廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要
第6～12回	3. プランニング	学科3:プランニングの目的とプロセス/調査と分析 :基本計画/門廻り/アプローチ :囲い/車庫廻り/擁壁 :庭/園路/その他住宅付属物等
第13～17回	4. 構成部材	学科4:門柱・門扉の構成材/駐車場・駐輪場の構成材 :アプローチの舗装材/囲いの構成材 :擁壁の舗装材/庭の構成材 :建物付属部材/エクステリアの照明
第18～22回	5. 植栽	学科5:樹木の基礎知識 :草花の基礎知識 :配植の基礎知識 :植栽の管理/多様化する植栽
第23～24回	6. 原価管理	学科6:原価管理・積算の基本/工程管理の実務
第25～26回	7. 工程管理	学科7:工程管理の基本
第27～29回	8. 設計図の作成	実地1:設計図面の作成/図の書き方 :製図基準/作図の手順/関連図面の見方
第30～33回	9. ゾーニング図の作成	実地2:ゾーニング図作成概要・作図手順・トレース
第34～41回	ゾーニング図集中講座	ゾーニング図作成①:平面ゾーニング・設計意図・計画内容、チェックシート① ゾーニング図作成②:平面ゾーニング・設計意図・計画内容、チェックシート② ゾーニング図作成③:平面ゾーニング・設計意図・計画内容、チェックシート③
第42～50回	受験対策講座<1> 受験対策講座<2> 受験対策講座<3> 受験模擬試験【1】 受験模擬試験【2】 受験模擬試験【2】	各項目学科模擬試験1、解説 各項目学科模擬試験2、解説 各項目学科模擬試験3、解説 「2級エクステリアプランナー」受験対策①: 模擬試験1 「2級エクステリアプランナー」受験対策②: 模擬試験2 「2級エクステリアプランナー」受験対策②: 模擬試験3
第51回		総評

※・1単位時間45分(90分授業)・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	広域建築実務Ⅱ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(68時間)	開講・履修期	2026年度:2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	加瀬谷章紀(自身の建築設計事務所で、福祉施設、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	この科目のために与えられたテーマを学習するに当たり、自ら計画し学ぶことを目標とする。この自ら学ぶ力を養うための「自己調整学習」が、知識の定着に最も重要である。この「自己調整学習」の力を向上させることを目指す。				
授業の概要及び特徴	学部や学科ごとに共通したテーマのもと、自ら計画し学ぶ力を実践させる。具体的には、実技課題のブラッシュアップ、パソコンリテラシーの習得、実習・演習授業の事前及びまとめのための学習とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	1. 実技科目のブラッシュアップ ↓	①住宅研究課題 ②住宅設計課題 ③都市住居設計課題など
第17回 第18回～	実技科目のブラッシュアップ 2. パソコンリテラシーの習得	①AutoCADの基本操作 ②Photoshopの基本操作 ③パワーポイントの基本操作 ④ArchiCADの基本操作など
第25回 第26回～	3. 実習・演習授業のまとめ コンクリート工学 ↓ 測量 土質基礎	①コンクリートの材料 ②配合設計 ③運搬及び打込み ④養生など ①測量の基礎 ②基準点測量など ①土質柱状図 ②機械ボーリング ③載荷試験など
第30回 第31回～	5. 苦手科目の補強など ↓	資格試験対策や普段の弱点部分の補強を行う。
第34回	苦手科目の補強など	

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	住宅環境デザイン演習	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	鹿田 征歳（環境シミュレーションや省エネ計算を実務とする意匠設計業務を行っており、その経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	H28年建築物省エネ法の施行に伴い、大型な建築はもちろん、小規模な住宅でも省エネに配慮した設計が求められるようになっていきます。本授業では、省エネの根幹となる断熱の考え方や熱貫流率の計算を学び、実践的に高い環境性能をもつ住宅を設計できることを目指します。また、空調設備などのアクティブな環境制御の方法や、重力換気、屋上緑化など、パッシブな環境制御方法も学びます。				
授業の概要及び特徴	大きく前半と後半に分けます。前半では、断熱材の基礎を学び、熱貫流率などの考え方を理解したうえで、断熱の計算の仕方を学びます。同時に、環境性能のよいとされる住宅の例を挙げ、その手法や特徴を学びます。後半では、基礎をふまえ、演習形式で各々による環境性能に配慮した住宅を設計してもらいます。エスキスをしたうえで、住宅の各部材を細かく決め、断熱性能を各自計算してもらいます。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	1. 建築省エネ法について	建築省エネ法について解説し、昨今の住宅に要求される環境性能について説明します。
	2. 断熱材について	↓ 断熱材の種類を学びます。
	3. 熱貫流率について	↓ 熱貫流率の考え方を解説します。
	4. 窓の断熱性能について	↓ 窓の種類と、断熱性能の特性を解説します。
	5. 断熱の計算の基本	↓ 手計算による断熱計算を学びます。
	6. 企業提供ソフトウェアによる断熱計算	↓ ソフトウェアの操作を学び、より実践的な断熱性能計算を行います。
	7. 環境性能に優れた住宅の実例	↓ 環境性能に優れた住宅の実例やその手法を紹介します。
	8. パッシブな環境制御について	↓ エネルギーに頼らない、建築的操作用による環境制御を学びます。
	9. 環境配慮型住宅スタディ	↓ 基本を理解したうえで、課題形式で各々環境に配慮した住宅を設計します。
	10. 形状エスキス	↓ 平面、断面、立面を作成し、エスキスを行います。
	11. 素材エスキス	↓ 断面詳細、建具表を作成し、エスキスを行います。
第15回～	12. 断熱計算の実践	↓ 断熱計算ソフトを使用し、設計した住宅の断熱性能計算を行います。
第16回～	13. 環境性能プレゼン手法	↓ プレゼンで伝わりやすい環境性能に配慮した住宅の表現方法を学びます。
第18回～	14. 作図	↓ 図面一式を完成させます。
第20回～	15. プレゼンテーション	↓ プレゼン一式を完成させます。
第25回～	16. 課題発表、講評1	↓ みんなの前で発表し、講評を行います。
第30回～	17. 課題発表、講評2	↓ 同上
～第34回	18. 総評	↓ 達成度、今後の目標を総評します。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築ディテール演習	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2026年度・2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	杉田 有（自身の設計事務所で、商業施設、住宅等の設計・監理に従事した経験を活かした授業をおこなう。）				
授業の到達目標	二級建築士の実技課題に合格できる、設計力と製図力を身に付けさせることが目標である。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。2級建築士設計製図試験での矩計図や詳細図を確実に作成出来るレベルの知識、技術の習得を目的とする。2級建築士設計製図試験に必要なエスキス力と製図力を身につけると共に、社会に出て役立つ、実務レベルの図面の読み方、材料・部材の知識、作図力を身に付ける。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回～	ガイダンス 木造矩計図 講義・演習	矩計図とは？ 各種用語について知り、学ぶ 木造の特徴と図面表現について 作図の演習を通して、矩計・部分詳細図の作図手順・方法を習得する
～第8回 第10回～	木造矩計図 講義・演習 (建築物の仕組み) (建築の材料) (部位の説明)	使用される様々な材料、部材等を知る 画像、映像、実物を通して、自らが描く図面に使われているものを知り、 実感を持った設計製図を行う バルコニーや屋根勾配、軒の出、外壁の仕様、床高さ等、様々なバリエーションについて学び、作図出来る知識、技術を習得する
～第20回 第21回～	名作住宅から学ぶ	国内外の名作住宅の矩計図、詳細図を通して、様々な納まり、材料、表現について知る トレースを通して、自らの手で描くことで技術を修得し、理解を深める
～第25回 第26回～	断面詳細・断面パースを描く	断面詳細パースを描くことで、空間構成や各部材、仕上げ、寸法のもつ意味を知り また、プレゼンテーションの一つとしての表現を学ぶ
第27回～ ～第30回 第31回～	RC造矩計図 講義・演習 (建築のスケール感) (RC造の基礎) (開口部廻りのディテール)	RC造の特徴と図面表現について 作図の演習を通して、矩計・部分詳細図の作図手順・方法を習得する 使用される様々な材料、部材等を知る 画像、映像、実物を通して、自らが描く図面に使われているものを知り、 実感を持った設計製図を行う
～第32回 第33回～	RC造矩計図 講義・演習	バルコニーや屋根形状、防水・外壁の仕様、床高さ等、様々なバリエーションについて学び、作図出来る知識、技術を習得する
～第34回	まとめ・仕上げ	学習のまとめと総評

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	住宅設計	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度：2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	加瀬谷章紀(自身の建築設計事務所で、福祉施設、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし授業を行う)				
授業の到達目標	1年次で学んだ建築の知識と技術を基本として、環境に配慮され、サステナブルで、バリアフリーであり、住む人にとって心地の良い住宅の提案を目指す。すなわち、「内部空間と外部空間が融合した心地のよい住空間づくり」をテーマに、住宅に特化した設計演習を行う。また、コンセプトを基に建築物として完成させ、プレゼンテーションまでが出来ることも目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第10回	1. 「住宅研究」	・「住宅」は人がそこで長い時間を過ごす、生活のベースとなるもの ＝そこには多くの機能が集約されている ・心地よい空間とはどのようなものか ・与えられた敷地と条件のなかで理想と思える住空間の設計を行うためには？ ・世界の有名住宅作品の研究を通して学ぶ(読み込み・図面トレース・模型作成等)
第11回～ 第13回～ 第17回～ 第19回～ 第25回～ 第33回～ 第37回～ 第41回～ 第42回	2. 「外と内:多様な関係性を生み出す傾斜地に建つ住宅」	■ 外と内の豊かで多様な関係性をもつ住空間 住宅は我々の生活のベースとなる場所であり、多くの時間を過ごす場所である。様々な事柄について、その機能や条件を整理し、心地よく美しい暮らしができる場所を創ることは、我々が生きていく上でとても大切なことである。ここでは、「外」と「内」の豊かで多様な関係性をもつ住空間を提案していく。 ・要項説明、敷地調査：課題説明と要求図面などを解説 ・コンセプト:単に「住む」という機能だけではなく、住人達の為のコミュニティの核となる空間を考え、周辺環境や設定条件などにも配慮するように指導 ・ダイアグラム:計画の要点や特徴を文章や図を用いて簡潔に表現する ・エスキス①:機能やデザインに基づくゾーニングや動線をまとめる ・エスキス②:ボリュームや外部施設、必要諸室、面積、構造、設備の検討 :スタディ模型による立体的な観点からの検討 ・プランニング①:詳細に検討された住戸の平・断面図及び外構計画の作成 ・プランニング②:配置図・平面図・断面図等の作成と、各種検討作業を継続する ・プランニング③:必要図面表現を明確にし、実際の作図を実施する ・パース・模型:計画意図を明確に伝えるための内外イメージの具現化 ・プレゼンテーション:誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・クラス講評会:他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・合同講評会:プレゼンテーションの知識、技術の向上を目指す
第43回～ 第45回～ 第49回～ 第51回～ 第55回～ 第61回～ 第63回～ 第65回 第66回	3. 「都市住居 ～2世帯居住の 新しい在り方」	■ 都市住居 都市の歴史をふまえて現代の都市を分析し、今問うべき問題を発見して、都市との新しい関係をもつ住宅を設計する。それは、街との関わりや居住者の生活スタイルといった基本的生活空間の検討がベースとなる。機能やスケールを大切にしつつ、想定される居住者の個性にあった、一つの新しい都市住宅の形の提案となることを目指す。 ・要項説明、敷地調査：課題説明と要求図面などを解説 ・コンセプト:単に「住む」という機能だけではなく、住人達の為のコミュニティの核となる空間を考え、周辺環境や設定条件などにも配慮するように指導 ・ダイアグラム:計画の要点や特徴を文章や図を用いて簡潔に表現する ・エスキス①:機能やデザインに基づくゾーニングや動線をまとめる ・エスキス②:ボリュームや外部施設、必要諸室、面積、構造、設備の検討 :スタディ模型による立体的な観点からの検討 ・プランニング①:詳細に検討された住戸の平・断面図及び外構計画の作成 ・プランニング②:配置図・平面図・断面図等の作成と、各種検討作業を継続する ・プランニング③:必要図面表現を明確にし、実際の作図を実施する ・パース・模型:計画意図を明確に伝えるための内外イメージの具現化 ・プレゼンテーション:誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・クラス講評会:他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・合同講評会:プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す 課題全体を通しての振り返りを行い、次のステップへの糧とする
第67回～ 第68回	総括課題	・年度末 卒業・進級制作作品集へ掲載する作品データの制作 ・優秀作品講評会、発表会における会場での聴講及びそのレポート

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	住宅BIM演習	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(136時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	有泉 太一郎(主宰する建築設計事務所で、様々な設計監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。)				
授業の到達目標	「住宅BIM演習」では、近年、建築業界で急速に普及し、注目を浴びている最新設計ツールであるBIMを、その基礎から学ぶ。具体的には、BIMの概念の理解から始まり、BIMソフト「ArchiCAD」の基本操作、そして作成した三次元モデルから二次元図面とパース作成、BIMの重要な機能の1つであるスペース作成を行う。シートレイヤによるレイアウトを基本とするが、最終的に複数のソフトを使い、デジタルプレゼンテーションまで行えることが目標である。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。オリジナルテキストや参考資料などを使い、教員が実際にパソコンを操作し、プロジェクターに投影して学生に学ばせる。そのうえで、学生は自ら手を動かし、その操作や機能などを体で実感しながら学んでゆく。基本的なモデルを提示し、全員が同じペースで基本を学ぶが、その後は徐々にそれぞれ自分のデザインをベースに作業を進め、最終的には、学生個々の習熟度に見合ったオリジナルの成果物とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	1. BIMの基本的な概念	BIMの定義・BIMの特徴・BIMの効果・BIMの関連用語などについて ↓
第6回～	2. BIMの基本操作① モデル作成1	ArchiCADによる3Dモデリングの基本(家具の作成) ↓
第11回～	3. BIMの基本操作② モデル作成2	ArchiCADによる住宅の3Dモデリング(壁・屋根の作成) ↓
第17回～	4. BIMの基本操作③ モデル作成3	ArchiCADによる住宅の3Dモデリング(床・建具の作成) ↓
	5. BIMの基本操作④ モデル作成4	ArchiCADによる住宅のレンダリング(テクスチャ・光源・パースの作成) ↓
第27回～	6. BIMの基本操作⑤ プレゼンシート作成1	ArchiCADによるプレゼンテーション方法 シートレイヤによるプレゼンシートの作成 ↓
	7. BIMの基本操作⑥ プレゼンシート作成2 モデルから平面図作成	ArchiCADによる平面図の作成 シートレイヤによる編集及び修正方法 ↓
第33回～	8. BIMの基本操作⑦ プレゼンシート作成3 モデルから立・断面図作成	ArchiCADによる立・断面図の作成 シートレイヤによる編集及び修正方法
第39回～	9. BIMの基本操作⑧ プレゼンシート作成4 モデルからパース作成	ArchiCADによるパースの作成 シートレイヤによる編集及び修正方法 ↓
第44回～	10. BIMの基本操作⑨ プレゼンシート作成5 モデルからスペース作成	ArchiCADによるスペースの作成 シートレイヤによる編集及び修正方法 ↓
第55回	11. BIMの基本操作⑩ プレゼンシート作成6	ArchiCADによるシートレイヤへのアートワークレイアウト方法 ↓
第58回～	異なるソフト間のデータ交換	Illustrator、Photoshopデータなどの取り込み、編集及び修正方法 規定用紙へのレイアウト及びアウトプット、取り出し PowerPointでまとめる → 口頭プレゼンテーション 規定用紙へのレイアウト
第64回～	12. 設計課題への応用	設計課題への応用 ↓
第68回		設計課題への応用及びプレゼンテーション

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築課題研究Ⅱ	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	4単位(140時間)	開講・履修期	2026年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	加瀬谷章紀(自身の建築設計事務所で、福祉施設、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	普段の教科目だけでは習得できない展示会の見学や講演会への参加。そして、企業を招き最新の業界情報を知る特別授業を受講する。さらに、設計課題等の現地調査や役所調査を行い、より実務に近い情報を得ることに役立てる。				
授業の概要及び特徴	展示会の開催時期、講演会の開催時期に応じて参加する。また、企業と連携し、定期的に特別授業を依頼し、業界の先端情報やソフトの実情に関する授業に参加する。さらに、平日でしかできない諸調査を行うことでより実務に即した方法で課題に取り組むことができる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				
回	授業項目	授業の計画及び内容			
第1回～	1. 校外授業 2. 特別授業への参加 3. 先端ソフトに関する特別授業 4. 設計課題等の調査 5. 課題対応	展示会の見学 歴史的建築物や有名な建築物の見学 建築家の講演会への参加 美術館等の見学 街並みの散策等の実施 企業に來校いただき業務内容や最先端事情についての特別授業の受講 企業で働くOBを招いて、業務内容や業界の実情等に関する特別授業の受講 プレゼンテーションソフト/先端ソフトの機能や操作状況について 特別授業の受講 ①Illustrator基本操作など ②Photoshopの基本操作など ③パワーポイントの基本操作など ④その他ソフトの操作など 設計課題の敷地調査、役所調査、環境調査等を行う。 設計課題等の作成作業・ブラッシュアップ等を行う。 ①住宅作品研究 ②住宅設計課題 ③都市住居設計課題 ④その他課題			
第70回	6. 苦手科目の補強	資格試験対策や普段の弱点部分の補強を行う。			

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	住宅設計デザイン科	修業年限	昼間部2年制
取得単位数	5単位（152時間）	開講・履修期	2026年度：2年（後期）	講義区分	専門実技
教員紹介	加瀬谷章紀（自身の建築設計事務所で、福祉施設、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし授業を行う）				
授業の到達目標	「卒業制作」では、敷地の選定、企画の立案等を自分で設定し、敷地・構造・規模などを調査・選定する。法規、構造、施設用途、建物コンセプト等、現実にも即したものとして仕上げることを目的とする。さまざまな事例の詳細な調査や各種情報交換をし、スケジュール管理まで含めた実務的な仕事の手順で「作品」の完成に導く。社会での擬似体験と考え、決められた期限内に満足のゆく作品を完成させる。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～ 第11回～ 第15回～ 第30回	課題及び要項説明 敷地調査 要項作成 エスキス① エスキス② エスキス③ エスキス④	・「卒業制作」の課題説明と要求図面などを解説 ・設定した敷地や周辺環境の調査を行う ・プログラム等各種設定を作成 ・多様化する社会、変化する社会のなかで建築の在り方、あるべき姿とは何かを考え、これまでに学んだ知識や技術の集大成として表現できるよう指導 ・コンセプト・敷地・構造などは自由であるが、規模やテーマはやはり、卒業制作に相応しいものとして、綿密な打ち合わせを行う
第31回～ 第34回	中間発表	・エスキスやスタディ模型を使って各自のコンセプトや表現したい事を発表し、完成に向けて最後の微調整を指導
第35回～ 第64回	図面・模型の作成① 図面・模型の作成② 図面・模型の作成③ 図面・模型の作成④ 図面・模型の作成⑤	・決められた期限、様々な制約のなかで作品を完成させるためには、日常生活パターンや健康管理などを含め、あらゆる面において自己コントロールが必要 ・更にはさまざまな場面で孤独な決断を強いられ、完成に向けて何を優先させ、何を捨てるのかといったアドバイスも行なう
第65回～ 第68回	プレゼンテーション① プレゼンテーション②	・模型写真、パース表現、コンセプトのまとめ方及び全体レイアウトなどを指導
第69回～ 第72回	クラス講評会	・他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す
第73回	合同講評会	・最後の講評会で、プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、もう一度「建築」を学んだ学生として、「講評会」で発表する意義を考える
第74回～ 第76回	総括課題	・年度末 卒業・進級制作作品集へ掲載する作品データの制作 ・優秀作品講評会、発表会における会場での聴講及びそのレポート

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週